

デーリー東北
2024年(令和6年)4月27日(土曜日) (21)

革新的「L字型画鋏」考案

革

学生が考案したさまざまなデザインを審査する「2023年度デザインコンテスト」(文科省、特許庁など主催)で、八戸工業大感性デザイン学科3年の吉崎結花さん(20)が最高賞の特許庁長官賞を受賞した。出展した「L字型画鋏」は、両端を折り曲げることで、爪が長い人や力が弱い人でも抜きやすいのが特徴。既に特許庁へ意匠登録を出願しており、吉崎さんは「画びょうを抜くの苦勞していた人の役に立てば」と活用を期待を込める。

(上條哲洋)

吉崎さん(3年)特許庁長官賞

吉崎さんは昨年、必修講義「ユニバーサルデザイン」の中で3カ月かけて「L字型画鋏」を作り上げた。アイデアについて、

「おしやれのために爪を伸ばしたり、ネイルをしたりすると、一般的な画びょうを抜くのが難しかった。どうにかして使いやす

抜き差し簡単「使いやすく」
意匠登録出願、商品化の動き



(左から順に) 平らに刺した状態からL字の両端を起こすと、指でつまんで簡単に抜くことができる



2023年度デザインコンテストで最高賞の特許庁長官賞を受賞した吉崎結花さん

すい形にできないか考えた」と振り返る。

開発した画びょうはL字の両側を曲げると指でつまむことができるため、簡単に抜くことができる。壁に刺す際は両側を戻せば平らになるため、見栄えがよく、服などが引っかかることもない。爪を伸ばしている人だけでなく、高齢者など力が弱くなっている人も簡単に扱える。

23年度同コンテストには全国の高校、大学、専門学校などの学生から622点の応募があ

り、意匠登録の出願支援対象となる優秀賞に32件を選出。「L字型画鋏」はその中から最高賞に選ばれた。

26日に八工大の坂本禎智学長へ受賞を報告した吉崎さんは「自分も爪を伸ばすことがあったので、同じ思いをしている人が『使いやすい』と思ってくれたらうれしい」と話した。

同大はメーカーと協議し、製品化の検討を進める方針。坂本学長は「日常体験から技術を生かして問題解決につなげてくれた。今後も技を磨いて社会に生かしてほしい」と活躍をたたえた。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。